

水野豊氏

本邦に於ける鑿泉事業界の權威として内外に其名を知られたる日本鑿泉會社を代表して居る氏は新潟縣の出身である。總角の頃より穎才世に優れて凡庸を異る處があつた。年少氣鋭にして、遠大の希望を抱き郷關を立つて東京に出で苦學孜孜として勉勵した。其効果は一躍して辯護士試験に合格したのは、如何に氏が學殖非凡であつて又如何に苦學力行の人であつたかを窺はれる、頭腦明晰にして霸氣満々たる氏の精力は、辯護士職業の多事多端なるにも拘らず、溢れて企業界に入り日本鑿泉、東洋化學工業、豊菱製氷萬坐温泉草津電

鑿泉界の人々

日本鑿泉會社長

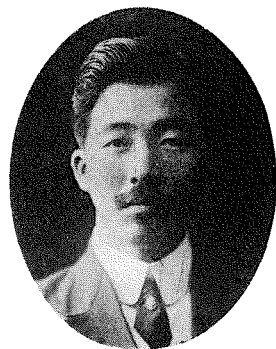
水野豊氏

氣鐵道等の社長重役を兼務するに至つた、就中日本鑿泉會社は、本邦に於ける鑿泉事業の最古であつて、信用も厚く曩きに宮内省吹上御苑に於ける鑿泉工事の下命を拜し、又文部省鐵道省、逓信省帝國大學其他諸官衙諸會社等の鑿泉工事を一手に引受け、何れも好成绩を上げて好評を博し斯界に於ける權威者として、他の追隨を許さない獨占的事業の觀を呈するに至つたのは全く氏の奮勵努力の致す處で、大いに稱嘆するに足るのである。又法曹界の材幹として將た事業界の人物として知られ且文筆に長じた氏は朝野法曹協力の下に法律の民衆化を標榜して起てる法律新報社の社長に推薦せられ、大いに言論界に萬丈の氣焰を擧げて居る。

建築界の新人

戸田利兵衛氏

去る秋の大震災以來、大小幾多の建築業者宛然雨後の筍の様に簇出せるが今日此頃の不景氣に祟られ、大抵の建築業者は青息吐息の窮狀である。其中にありて大小幾多の建築工事を請負ひ朝野の信望を擔ひ、事務所を郵船ビルに置き目覺しい活躍振りを見せてゐるものに戸田組がある。當主利兵衛氏は性を富田名を繁秋と云ひ明治十九年一月五日茨城縣東茨城郡北山内村舊家富田家の二男として生れ大正二年東大工學部建築科を卒へるや直ちに大倉組に入り在社僅かにして先代戸田利兵衛氏に其才幹を認められ選ばれて同家の養嗣子となつた。元來霸氣に富める氏は氏一流の主義からして、請負金の高低には更に拘泥する處なく飽迄設計者の意を尊重し施工上一段の注意を拂ひ徹頭徹尾、堅美を標語とし、材料



戸田利兵衛氏

の撰擇、使役者の人選等にも細心の注意を怠らず、監督上遺算なきを期し以つて工事に着手するご云ふ、宜なるかな、今日の戸田組の信望、又故あるかなである。

氏は頭腦明折思慮緻密にして一面俠義に富み後進を補助して人材養成に盡す等よく先代の名を辱めず帝都業界に於ける新人である。最近斯界の驚異として好評を博せし日本青年館は實に氏の手になつたものである。本年四十才とも見えぬ若々しい氏の風貌は現在の多望多幸を語るものである。氏の前途や大いに刮目して見るべきものがあらう。